

## 家族の絆きずな

小 六

私の弟は、自閉症じへいししょうという障害がありません。それが分かったとき、家族みんなが悲しい気持ちになりました。けれども母は、弟の状態が少しでもよくなるように、自閉症のことを本で調べました。どういうふうに関われば、弟にとって理解しやすいのか、どんなことが効果的なのか、弟の中にある「マイルール」のわくを広げるためにはどうしたらよいか、を調べました。そして私も、自閉症とはどのようなものなのか、本を読んで勉強をしました。

自閉症の子は、他の子より言葉を覚えるのがおそかったり、同じ物ばかり食べ

てしまったりします。私たちは、言葉の教え方や文字の教え方などを調べて、弟にゆっくり、ていねいに教えるようにしました。私は絵をかいて分かりやすくしたり、よく行く場所は写真をとって弟に見せたりしました。家族みんなで弟の障害が気にならないようになるまで、教えていきました。今日はどこに行くのか、何をするのかを写真や絵で弟が理解しやすいように一つずつ教えていきました。今では、写真や絵を使わなくても自分から「今日ようち園？」「今日リハビリ？」などと聞くことができるようになりました。まだ同じことを何度も聞くことがあります。私は根気強く答えています。

最初は、教えたことを覚えてくれなくて、弟をしかってしまったこともありま

した。泣かせてしまったこともありましたが。でも、教え方を工夫してみると、弟は私に温かい笑顔を見せてくれるようになりました。その笑顔を見ると、私も教えるのが楽しくなりました。

私の家族は、とても優しいです。私の家族は弟に対してどんなことでも楽しく教えています。

私は、人に対して優しくありたいです。私の家族が弟に接しているように、人に優しくありたいと思います。